

## あとがき

平成元年十一月より 編集事務 小野 郁子

平成二年四月より 社会教育課長 山崎 修一

霧島町にはこれまでに次の郷土誌があった。

『東裏山郷土史』新穂彦熊編 昭和九年発行

『きりしま村郷土誌』村教職員会編

昭和三十二年発行

『霧島町郷土誌』編集委員会編 昭和四十二年発行

昭和六十三年、町制施行三十周年記念事業の一つとして『霧島町郷土誌改訂版』を発行することになり、同年十二月七日次の編集委員が町長から委嘱された。

〔編集委員〕

有馬 純博 入来 岩男 今藤 義男

内村 義幸 児玉 親吉 小園 公雄

逆瀬川正文 高林 義雄 徳田 盛常

中神 俊雄 東芦谷政美 宮田 安彦

本仮屋 実 川田 郁雄 (平成元年三月転出)

〔事務局〕

教育長 南 一雄

社会教育課長 小牟田 修

昭和六十三年十二月七日、編集委員の初会合を開き、互選により正副委員長を決定した。

委員長 宮田 安彦 副委員長 今藤 義男

監修は次のとおり依頼することに決定した。

鹿児島大学法文学部助教授 原口 泉先生

その後の会合によって、編集方針は初め昭和四十二年発行の郷土誌を補充し、その後の書き継ぎをする方針であつたが、これを全面的に見直し、新規に編集する方針に改められた。

次に編集日程、原稿執筆の分担等を決め、編集作業を進めることになった。以後委員は資料や情報の発掘、収集、執筆などの仕事を進め、必要に応じて部門別や全体会を開き、相互研究や、監修者の指導も仰いできた。

発行については最初の予定よりも一年余り遅れることになったが、これは編集方針の変更もあり、「発刊するからにはよりよいものを」という委員の熱意によるもの

で已むを得ないことであった。この間、忙しい業務の中の時間を割いて編集の仕事を進めていたいた委員の方々や、情報や資料の提供、実地踏査等に進んで協力してくださった多くの方々に心から感謝申し上げたい。

我々委員としては最善の努力を尽くしたのであるが、學問の道は深く高く際限がないので、本書にも不備な点が多い。これらについては今後研究のうえ、更によりよき郷土誌が作られることを期待する次第である。

編集委員長  
宮田 安彦



霧島町郷土誌参考文献

- 日本史 井上光貞外  
日本国家の起源 井上光貞  
西南の役戦袍日記 古閑俊雄  
薩摩の古府 藤井重寿  
宮崎県の歴史 日高次吉  
萬日記覚帳（文久三年） 椎原八郎右衛門記  
萬日記和帳（元治元年） 椎原八郎右衛門記  
萬日記帳（慶応二年） 椎原八郎右衛門記  
萬日記（明治三十年、同三十四年、同三十六年、同  
四十年、大正二年、同八年） 椎原喜之承記  
曾於郡田口村抱地高名寄帖  
田口大窪川北村抱地浮免高押札帳  
抱地高大窪川北村竿次押札帳  
安永九歳子四月七日  
隅州贈於郡田口村御検地門割竿次帳  
鹿児島県農業史 鹿大農学部  
鹿児島県畜産史 中村初枝外  
薩隅煙草錄 宮本又次外  
歌集高千穂 斎藤茂吉  
霧島の歌 与謝野寛 与謝野晶子  
和名抄  
諸家系図  
薩隅日古戰場記  
薩隅地理纂考  
薩隅日地理纂考  
鹿児島県教育会  
原口虎雄監修  
日本書紀  
日本古典文学大系  
日本古典文学大系  
井上辰雄  
中村明藏  
隼人の楯  
井上光貞  
歴史散步事典  
鹿児島県史 鹿児島県  
鹿児島県史料 鹿児島県  
鹿児島の歴史 鹿児島県  
鹿児島県歴史散步 鹿児島県  
鹿児島県遺跡地名表 県社会教育研究会  
鹿児島県の歴史 県高校歴史部会  
鹿児島県教育委員会 県教育委員会  
鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 県教育委員会  
三州諸家系図纂 川崎大十  
諸家系図

かごしまの方言集

小野重朗

鹿児島県統計年鑑

鹿児島県立農業大学校

霧島の年間気象統計

霧島町教育委員会

薩藩旧記雑錄

鹿児島県

椎原文書

椎原誠治氏所蔵

大隅国郷村高帳

雲遊雑記伝

明赫記

霧島神宮文書

霧島神宮所蔵

東芦谷家文書

東芦谷政美氏所蔵

町内小、中学校沿革史

東襲山郷土史

きりしま村郷土誌

旧霧島町郷土誌

霧島町歴史年表（平成三年十二月）

時代区分	時代	年号	西暦	記
縄文時代	飛鳥時代	大化	五四〇	石器が町内各地から発見されている。特に猪子・石白土・遠見松・堀之内・王子原・北永野田などであるが、十分に研究されていない。
弥生時代	奈良時代	元	六四五	土器に縄目や貝殻の文様がある。野上・狹名田・遠見松より土器片出土。
古墳時代	奈良時代	元	六五五	市野々・笠之段・入水から土器片出土。法ヶ崎（昭和六十三年の調査で土器片出土）良質の土器・金属器を製作した時代で、稻作も普及した。
平安時代	奈良時代	元	七〇二	欽明天皇の御代、僧慶胤が背門丘に社殿を建て霧島神社を祀る。
仁安	奈良時代	元	七一三	大化の革新。初めて年号の元を定めて大化という。
永久	奈良時代	元	七一九	隼人が衆を率いて上京。
天永	奈良時代	元	七二〇	薩摩・多播（たね）両国創置。
延暦	奈良時代	元	七二一	日向の国の一部を割き大隅国を置く。大隅に国司が置かれた。
天慶	奈良時代	元	七四二	大隅国司陽侯火麻呂殺害される。
万寿	奈良時代	元	七六九	大伴旅人征隼人將軍として大隅に下向、隼人の反抗を鎮定。
天治	奈良時代	元	七八八	隼人鎮定完了。副將軍も帰京する。
一〇二一	奈良時代	元	九四五	大隅国大地震。
一一二二	奈良時代	元	一〇二一	和氣清麻呂、弓削道鏡のために犬飼滝近辺に流罪。
一一三三	奈良時代	元	一一二六	霧島山噴火（二月二日）。
一一六七	奈良時代	元	一一二六	霧島山西峰噴火（二月三日）。
霧島山噴火。	奈良時代	元	一一二六	霧島山噴火（二月二日）。
霧島山噴火（二月三日）。	奈良時代	元	一一二六	霧島山西峰噴火（二月二日）。
霧島山噴火。	奈良時代	元	一一二六	霧島山噴火（二月三日）。

時代区分	南北朝時代										記
	室	町	時	代	鎌	倉	時	代	平安時代	年号	
室	弘治	永祿	天文	文明	大永	貞治	寛元	建治	文治	寿永	安元
町	一	二	二	一	二	北朝	元	元	元	二	二
時	一	一	二	一	一	二	二	二	一	一	一
代	三	三	〇	六	四	三	四	八	四	七	七
鎌	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
倉	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
時	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
代	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
平安時代	治承	元	治承	元	治承	元	元	元	元	元	西暦
年号	一一七六	一一七七	一一八三	一一八五	一一九三	一一九七	一一三四	一一三四	一一三六	一一三六	記
西暦	一一七六	一一七七	一一八三	一一八五	一一九三	一一九七	一一三四	一一三四	一一三六	一一三六	事
このころ税所安弁、法乘坊霧島座主となる。	京都鹿ヶ谷の変により僧俊寛・平康頼ら硫黄島へ流罪。大川原・夏木・赤坂・牧神・止上を経て舟出する。	霧島山噴火（一二月一七日）。	源頼朝が諸国に守護地頭を置く。島津忠久が島津荘の下司職となつた。	島津忠久が薩摩・大隅・日向の守護職となつた。	薩隅日三州の岡田帳ができた。	霧島山噴火（一二月二八日）のため霧島神社焼失。半田（待世）に仮宮を建てて祀る。	島津忠久が薩摩・大隅・日向の守護職となつた。	元寇に対して西国御家人たち博多湾岸に石塁構築。石築役配布案に田口八丁・大窪六丁・川北五丁の田地記載。	税所氏人吉の相良氏と組み、曾於郡一帯を席捲。	島津忠昌が僧兼慶に命じて、現在地に霧島神社と華林寺を再建させる。	島津貴久、霧島神社に戰勝祈願する。
永野田の七社神社に、この年代の午卯月吉日（九月一九日）の棟札がある。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	ボルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。	島津貴久、霧島神社に戰勝祈願する。
島津義久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。	島津貴久、霧島神社に坂之上門寄進。
曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。	曾於郡之内に小建名とある。

# 江 戸 時 代 安 土 桃 山 時 代





時代区分	年号	西暦	記事
明治三二	一八九八		霧島山噴火（一月二六日）。鹿児島市に電灯つく。
明治三三	一八九九		霧島山噴火（二月一六日）。
明治三四	一九〇〇		大田小学校に高等科を設ける。村内に農事小組合設置。田口に天理教分教会。鹿児島・隼人間鉄道開通。
大正三	一九〇一		大田校区婦人会結成。田口の稻葉神社を天子神社に合祀。
大正三五	一九〇二		日露戦争（同三八年終結）。
大正三七	一九〇四		霧島山噴火（二月二五日）。
大正三八	一九〇五		永水校区婦人会結成。
大正三九〇	一九〇七		田口に竜泉寺設立。八代・人吉間鉄道開通。
大正三四一	一九〇八		鹿児島本線開通（門司・八代・人吉・吉松・鹿児島）。
大正三四二	一九〇九		待世神社を天子神社に、尾谷の七社神社と社が迫の七社神社を場集田（向田）の七社神社に合祀。
大正三四三	一九一〇		霧島山噴火（一月八日）。桜島大噴火（一月二一日）。第一次世界大戦。鹿児島・川内間鉄道開通。
大正三四四	一九一一		外園平次郎、柄田に水力による製材所を開業。
大正三四五	一九一四		田口に水力による精米所開業（原田）。
大正三四六	一九一五		各小学校に実業補習学校付設。
大正三四七	一九一六		上松瀬榮次、田口製茶工場を設置。
大正三四八	一九一七		村内に電灯導入。大窪に私設消防組合発足、組長鶴木幸蔵。
大正三四九	一九一九		宮迫用水路開設（永水小下からトゾンネルで導水）。
大正三四〇	一九二〇		栗野・山野間鉄道開通。
大正三四一	一九二一		霧島第二発電所（上流）運転開始。
大正三四二	一九二二		関東大震災。川内・米之津間、串良・古江間鉄道開通。
大正三四三	一九二三		東裏山・清水村に小作争議起る。入戸・財部間県道開通。
大正三四四	一九二四		NHKラジオ放送開始（東京）。
大正三四五	一九二五		郡制廃止。小鹿野魚道開設。

昭和

一九二七	林田バス運行開始。公設消防組発足。小学校に中等公民学校付設。霧島第一発電所運転開始。
一九二八	霧島神宮境内参道改修完成。
一九二九	霧島・国分間鉄道開通。産業組合発足。
一九三〇	満州事変起る。『東襲山郷土史』発行（新穂彦熊編）。霧島・丸尾間道路開通。
一九三一	日豊線（都城・隼人間）開通。北永野田に製茶工場設立。巡査駐在所を大窪から現在地に移転。
一九三二	霧島郵便局に電信電話開通。
一九三三	神宮前巡査駐在所設置。宮迫梅木線道路開通。
一九三四	霧島が国立公園に指定される。各市町に方面委員（民生委員）を置く。
一九三五	昭和天皇霧島神宮に御親拝。東襲山村を霧島村と改称。王子原に青年学校を設置。神宮駅・霧島神宮間県道改修。
一九三六	日支事変起る。霧島小に高等科を設置。消防組を警防団と改称各校区に分団を置く。
一九三七	永水小学校に高等科を設置。
一九三八	太平洋戦争起る。翼賛壮年団結成。森林組合設立。小学校を国民学校と改称。義務教育を六年から八年とした。
一九三九	産業組合と農会を合併して農業会を設立。
一九四〇	霧島牧野組合設立（横岳）。
一九四一	太平洋戦争起る。翼賛壮年団結成。森林組合設立。小学校を国民学校と改称。義務教育を六年から八年とした。
一九四二	廣島・長崎に原爆投下。戦争終結。霧島村健康保険組合設立。田口に診療所を設置。猪子石開拓始まる。
一九四三	農地改革。民生委員発足。
一九四四	国民学校を小学校と改称し、新学制実施（六・三・三・四）。霧島中学校を設置、霧島・永水に分校を置く。
一九四五	青年学校廃止。健康保険組合を村営に移管。重久にあった役場が焼失。待世公会堂に移転、霧島農協発足。
一九四六	大窪診療所開設。
一九四七	霧島中学校一期工事竣工。松永は隼人町に編入。重久の大部分が東襲山村となり田口・大窪・川北・永水が霧島村となる。役場庁舎竣工。大道教霧島支部教会設立。
一九四八	
一九四九	
一九五〇	

昭和時代		時代区分	年号	西暦	記事
昭和二四	昭和二五	昭和二六	一九五一	一九五一年	サンフランシスコ平和条約調印。有川・小里製茶工場設立。霧島中学校校舎竣工。霧島伝染病棟組合発足。健康保険組合発足。教育委員会発足。
昭和二五	昭和二六	昭和二七	一九五二	一九五二年	NHKテレビ、MBCテレビ放送開始。竜泉寺に保育園を設置。合同七草祝・成人式・敬老会を始める。遺族会、傷痍軍人会発足。
昭和二六	昭和二七	昭和二八	一九五三	一九五三年	町水道事業開始。町営横岳放牧場開始。『霧島村郷土誌』発行。
昭和二七	昭和二八	昭和二九	一九五四	一九五四年	一万円札発行。永水小鉄筋校舎竣工。永池・丸尾間、国分・神宮間道路舗装工事開始、いずれも三十六年竣工。霧島局、神宮前局の電話統合。町制施行される（一月）。
昭和二八	昭和二九	昭和三〇	一九五五	一九五五年	新燃岳噴火（二月一七日）。町内に納税組合を設置。
昭和二九	昭和三〇	昭和三一	一九五六	一九五六年	国民健康保険事業開始。身障者協議会発足。大田小給食開始。
昭和三〇	昭和三一	昭和三二	一九五七	一九五七年	町営国民宿舎みやま荘オープン。国民年金制度発足。泉源ボーリング成功。永水小・中給食開始。
昭和三一	昭和三二	昭和三三	一九五八	一九五八年	霧島小・中給食開始。霧島分校は霧島東中学校となる。労災病院業務開始。横岳展望所設置。
昭和三二	昭和三三	昭和三四	一九五九	一九五九年	町営温泉給湯事業開始。霧島中給食開始。猪子石に電気・水道導入。町長寿会の連合会設立。町立母子健康センター設置。国分市三町火葬場組合設立。
昭和三三	昭和三四	昭和三五	一九六〇	一九六〇年	東京オリンピック開催。霧島中体育館竣工。霧島屋久国立公園指定。
昭和三四	昭和三五	昭和三六	一九六一	一九六一年	建国記念日制定。永水分校は永水中学校となる。町慰靈塔建設。
昭和三五	昭和三六	昭和三七	一九六二	一九六二年	カラーテレビ放送開始。大田小水泳プール竣工。大窪保育園開設。
昭和三六	昭和三七	昭和三八	一九六三	一九六三年	『町郷土誌』発行。
昭和三七	昭和三九	昭和三九	一九六四	一九六四年	明治百年記念式典挙行。町制十周年。永水中学校を霧島中学校に統合。町章、町民歌、町民憲章制定。
昭和三八	昭和四〇	昭和四〇	一九六五	一九六五年	国民総生産五一兆世界第二位。永水小体育館竣工。小浜町・牧園町・霧島町の姉妹町盟約成立。
昭和三九	昭和四一	昭和四一	一九六六	一九六六年	鹿児島本線電化工事成る。杉安病院オープン。大田幼稚園開設。
昭和四〇	昭和四二	昭和四二	一九六七	一九六七年	町中央公民館竣工。老人憩の家田口にオープン。町立大田幼稚園園舎竣工。農村集団電話開通。

昭和時代

四七	一九七二	日中国交正常化調印。鹿児島空港オープン。太陽国体開催。国分地区消防組合に加入。
四八	一九七三	町内電話自動化成る。
四九	一九七四	町立総合運動場竣工。第一回町文化祭開催。
五一	一九七五	国民宿舎みやま荘民営移管。霧島中改築完了。町立運動場照明施設竣工。広域農道栗野・牧園間竣工。牧園・霧島間着工。
五二	一九七六	すめら保育園開園。霧島東中体育館竣工。
五三	一九七七	町立歴史民俗資料館・永水地区公民館竣工。老人福祉バス購入。町道舗装率五七・三%となる。
五四	一九七八	七月一七日大雨のため霧島川はん濫損害七四〇〇万円。日豊線電化完成。福祉協議会が法人となる。
五六	一九八〇	田口地域公民館竣工。基幹集落センター竣工。第一回霧島国際音楽祭が開催。衆参両院同時選挙実施。白土橋竣工。霧島町役場新庁舎竣工。
五七	一九八一	霧島郵便局新築、現在地に移転する。高千穂河原に美化管理センター竣工。
五八	一九八二	霧島中学校体育館及びＬＬ教室、ランゲージ・ラボラトリ（語学練習室）が落成する。霧島町商工会館新築落成。国道二二三号の霧島大橋（九面・逆矛を高欄につける）竣工。霧島町地籍調査事業始まる。
五九	一九八三	霧島町民音頭公募、決定。霧島小学校新校舎落成。
六〇	一九八四	県営高千穂河原ビジターセンター落成オープン。全国植樹祭が牧園町高千穂で開催され、昭和天皇が行幸。帰路、霧島町役場にお立ち寄りになる。霧島屋久国立公園指定五十周年記念式典（えびの高原にて）開催。
六一	一九八五	霧島町商工会青年部による第一回おじやんせ市開催。霧島東中学校が霧島中学校に統合される。町文化協会十周年記念誌刊行。
六二	一九八六	緑の村に丸太作りのバンガロー竣工。第一回ママさんソフトボール大会開催。霧島町行政改革大綱発表。
六三	一九八七	霧島町消防団が日本消防協会の表彰旗を受賞する。国道二二三号線の霧島神宮下の道が「日本の道」百選に選ばれる。軽費老人ホーム「霧島荘」がオープン。
六四	一九八八	手籠川橋完成。川北に多目的集会施設竣工オープン。県営高千穂河原野営キャンプ場オープン。県道田口橋完成。小瀬戸橋竣工。西日本一の霧島神宮の大鳥居完成。行政窓口事務に初めてのコ

時代区分	年号	西暦	記
平成時代	平成元年		
	一九八九	一九八九	ノビューオー導入。昭和天皇崩御。
	一九九〇	一九九〇	水流川原にサンビレッジ住宅建設始まる（初年度一二戸）。霧島町広報縮刷版発刊。霧島国際音楽祭十周年を迎える。霧島をテーマにした八号洋画展第一回開催。霧島の四季写真展第一回開催。霧島大橋竣工。新嘗祭献穀本町から森原光雄氏が米を、加治木満男氏が粟を宮中において献穀。霧島町中央公民館が全国優良公民館として文部大臣賞を受賞。
	一九九一	一九九一	町役場、週休二日制を実施。霧島町が新過疎地域特別措置法を適用される。霧島川防災ダム完成。平成橋竣工。広域農道全区域開通（栗野・牧園・霧島・永水区間三〇九六㍍）。サンビレッジ住宅建設完了（四八戸）。遠見松住宅一二戸建設。神話の里公園オープン（七月）。霧島小学校体育館竣工。考人憩いの家の敷地内に、老人福祉作業所竣工。

# 霧島町郷土誌

平成四年三月三十一日 印刷  
平成四年三月三十一日 発行

編集者 霧島町郷土誌編集委員会

発行 霧島町

鹿児島県姶良郡霧島町田口八一四  
(TEL) 〇九九五(五七)一一一

印刷所 第一法規出版株式会社

安永五年正月七日

陽明農村都田口御検地割帳

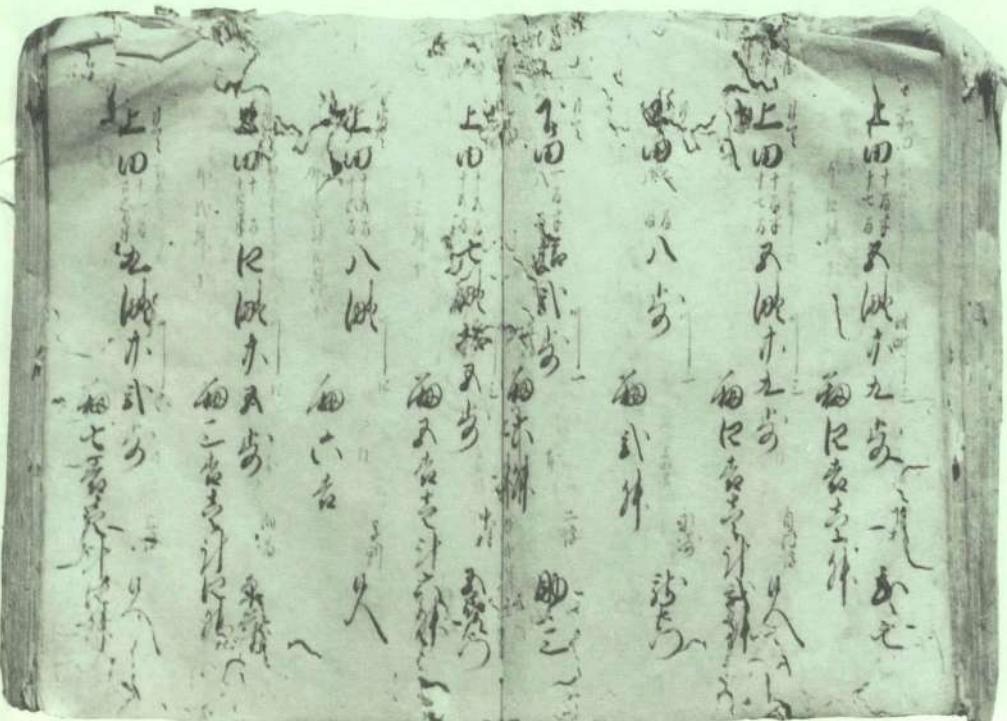
安

田口御検地割帳

「隅州贈於郡田口村御検地門割竿次帳」

この史料は、椎原家の文書の一つで、  
永九年（一七八〇）のころの田口村の門  
屋敷について記載したものである。  
江戸時代中期の霧島の農村構造を解明す  
る数少ない資料。

（第三編 第四章 第三節に全文掲載）



傳

六國門

大夏二計本二合

一本拾取

福壽合口又

一本拾取

八脚抬式尚

一本拾取

大夏三合口計本合

一本

抬式尚

大夏三合口計本合

一本拾取

福壽合口又

一本拾取

大夏三合口計本合

一本拾取

福壽合口又

一本拾取

大夏三合口計本合

中

日月年中

中日月年中

